

文化・芸術

《名画の扉》

大川美術館コレクションから



「花・富士に献花」

1975年ごろ、紙本彩色
60・6センチ×72・7センチ

片岡球子

(1905～2008年)

大胆な形態で捉えら
れ、どっしりとした存
在感を放つ青い富士
山。梅、桜、牡丹(ぼた
ん)が富士を囲み、大
きくあでやかな牡丹と
装飾的に描かれた梅と
桜の対比も画面をいっ
そう豊かに彩っていま
す。鮮やかな色彩、大
胆にデフォルメされた
形、力強い筆遣いの画
風は、対象をそしゃく
し、独特の色使いと形
のとらえ方によってつ
かみ取られました。

片岡球子は札幌市に
醸造家の長女として生
まれ、女子美術専門学
校(現女子美術大学)で
学び、画家になること
です。

86年には文化功労者
に叙せられ、89年文化
勲章を受章。代表作の
「面構」シリーズでは、
武将や浮世絵師といっ
た歴史上の人物を生気
みなぎる力強い筆致で
描いた連作を発表しま
した。富士もまた多く
取り組んだ画題です。
4月26日からのコレ
クション展で展示予定
です。

(大谷)